

アズキナシ

Sorbus alnifolia

バラ科



アズキナシ

名前の由来

野生のナシ類に似ていて、アズキのように小さな果実をつけるから。「ナシ(梨)」は①ナカシロ(中白)の略、②風があると実らないことから「風なし」から、③ナス(中酸)の転、④奈子の字音、⑤ネシロミの転、⑥アマシ(甘)から、などの説がある。漢字名：小豆梨

形態的特徴

樹高10~15m、太さ30~50cmになる。落葉広葉樹。雌雄同株。葉は広卵形~楕円形、長さ6~10cm、先はとがり重鋸歯縁、互生。花は1~1.5cmの白い花をまばらにつける。雌雄同花。花弁数は5。果実は、長卵形~楕円形で長さ6~10mm、小豆状で緑から赤く熟す。

類似種との見分け方：サワシバの葉の基部が、ハート形なのに対し、アズキナシの基部はそうにならない。



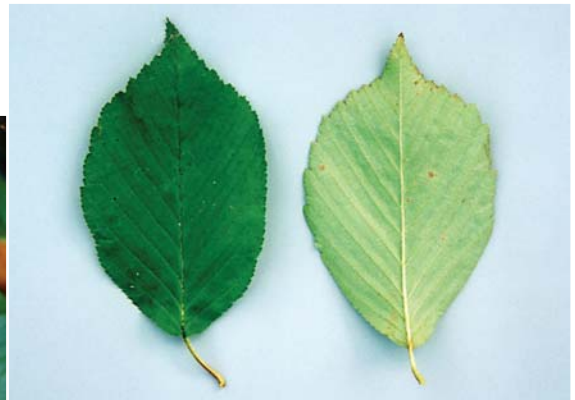
アズキナシの花



アズキナシの実



アズキナシの実。小豆の形



アズキナシの葉。大小二重のギザギザがある(重鋸歯縁)。先はとがり、側脈がまっすぐでクッキリ



アズキナシの樹形。特に林内では、すらりと幹が伸びる



アズキナシの樹皮。初めは滑らかで、後ひし形に裂ける



アズキナシの冬芽。4~6mm



アズキナシの葉の付き方

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期							■					

生育環境・分布

低地から山地に生育。特に山腹斜面上部に多い。適潤性～耐乾性であり、乾燥には比較的強い。中性～陽性木。pHは弱酸性～耐アルカリ性。土性は壤土～埴質壤土（砂の割合40～65%）。土壤の堅密は耐堅密性。通気性は中程度。

繁殖生態・寿命

開花期 5～6月、種子成熟10月。鳥・動物によって種子散布。寿命は北大苫小牧演習林には、182年の標本がある。

他生物との関わり

赤い実を鳥が食べる。鳥・動物によって種子散布される。チョウのコツバメ幼虫が食樹とする。

植栽関係

実生による。果実を除去して、取り蒔きする。乾燥を避ける。1～2年で発芽。挿し木の適・不適は不明。種子の豊凶/10年で4～7回が並作以上。根回しによる発根性は悪く、成木移植の難易は中程度。切り株からの萌芽で生存する確率は5年後50%、20年後30%程度。

興味深い話

- 材として家具材・くり物に用いられ、樹皮は染料に、果実は食用（果実酒）に供される。
- 葉や実の形は違うが、ナナカマドの仲間である。アズキナシとナナカマドの雑種で「カワシロナナカマド」という木がある。
- 別名「ハカリノメ」というが、これは「秤の目」で、白い皮目（幹・枝などにできる空気の出入り口）が枝上に散在するのを、秤の目盛りに見立てたからという。
- カタスギという別名もある。
- 十勝地方のアイヌ語で「チカマセタンニ」という。
- 「アズキ（小豆）」の名の由来にも数多くの説がある。その一つに他地方のアイヌ語名である「antuki（アントウキ）」から来た、というものがある。逆にアズキがア

分布：国外分布は、朝鮮、ウスリー、中国。国内分布は、日本全国。北海道内分布は、北海道全土。十勝地方生育状況は、全域。



花をつけたアズキナシ

イヌ語に入ったとも言われている。



アズキナシの葉と熟す前の実

配慮事項

根回しによる発根性は悪く、成木移植の難易は中程度。切り株からの萌芽で生存する確率は5年後50%、20年後30%程度。

参考文献

- 「新装版樹木根系図説」 苅住昇 誠文堂新光社 1987
「北海道 樹木図鑑」 佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「樹木大図鑑」 高橋秀男監修 北隆館 1991
「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「図説 植物用語事典」 清水建美 著 八坂書房 2001
「図説花と樹の大事典」 木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「北見の蝶」 木村辰正 北見市教育委員会 1994

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 植物編・動物編」 知里真志保、平凡社、1976

萌芽更新を利用した広葉樹の施業 佐藤俊彦 光珠内季報116 p:14～p:17 1999

広葉樹の実生繁殖 久保田泰則 光珠内季報40 p:16～p:26 1979

広葉樹のタネの豊凶 水井憲雄 北方林業46 p:117～p:120 1993

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥辺) 類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ